

一人の新しい人は、人を創造した神の定められた御旨を成就する

(木曜日—午前第一の部)

メッセージ 1

神の永遠の定められた御旨と一人の新しい人

聖書：創 1:26-28. エペソ 2:15-16. 4:24. 6:10-13. コロサイ 3:10

I. 永遠の定められた御旨（もろもろの時代の定められた御旨）は、神が過去の永遠に立てた永遠のご計画です——エペソ 3:11. 1:9, 11. ローマ 8:28：

A. 宇宙における神の定められた御旨は、彼と完全に同じ一群れの人を生み出すことです。これは聖書の独特の主題です——ヨハネ 1:12-13. I ヨハネ 3:2：

1. この一群れの方は、命、性質、かたち、外観、輝き、栄光、外側の表現において神と同じです——啓 4:2-3. 21:10-11, 18。
2. 神の定められた御旨が完成されるのは、神聖な命を彼の選ばれ贖われた人の中へと分与することによってです。神の命が彼の民の中へと造り込まれるとき、新陳代謝的な反応が彼らの内側に起こり、彼らが造り変えられて神と同じになるようになります——ヨハネ 3:15. I ヨハネ 5:11-12. II コリント 3:18. ローマ 8:29。

B. 「人」は聖書で重大な言葉です——創 1:26. 詩 8:4-6：

1. 神の意図は人と共にあり、神の思想は人に集中しており、神の心は人の上にあります。
2. 神のご計画を完成するのは人であり、神を表現するのは人であり、神の敵を打ち破るのは人であり、神の王国を人類の中へともたらすのは人です。
3. 人は神の現れの手段であり、人は神の行動の手段であり、人は神の行政の手段です——エゼキエル 1:26, 5, 10。

C. 神の永遠の定められた御旨は、団体の人を得て神を表現し、神を代行することです。これが人を創造した神の定められた御旨でした——創 1:26-28. 5:1-2. エペソ 3:11. 1:9, 11。

II. 「われわれのかたちに、われわれの姿にしたがって、人を造ろう」——創 1:26：

A. 聖書に神と人の関係について、奥義的な思想があります——26節. エゼキエル 1:26. I ヨハネ 3:2 後半. 啓 4:3 前半. 21:11 後半：

1. 神の願いは、人と同じになり、人を彼と同じにすることです——I ヨハネ 3:2 後半。
2. 神の意図は、ご自身をキリストの中でわたしたちの中へと造り込み、ご自身をわたしたちと同じにし、わたしたちを彼と同じにすることです——エペソ 3:17 前半。

B. 「人を造ろう」が啓示しているのは、神格の三者の間に、人の創造に関して会議があったということです——創 1:26 前半：

1. 人を創造するという決定は、過去の永遠においてなされました。これが示しているのは、人を創造することが、三一の神の永遠の定められた御旨のためであったということです——エペソ 3:9-11。

2. 人を創造した神の意図は、彼の神聖なエコノミーを遂行して、ご自身を人の中へと分与するためでした—— I テモテ 1:4. ローマ 8:11。

C. 神は彼ご自身のかたち、彼の姿にしたがって人を創造しました——創 1:26 前半：

1. 神のかたちは、神の内なる存在を指しており、神の属性の内なる本質の表現であり、これらの属性の最も顕著なものは、愛（I ヨハネ 4:8）、光（1:5）、聖（啓 4:8）、義（エレミヤ 23:6）です。

2. 神の姿は、神の形（ピリピ 2:6）を指しており、神のパーソンの本質と性質の表現です。

3. 神は人を創造してご自身の複製とならせました。それは、人が神を内容とし神を表現する能力を持つためです——II コリント 4:6-7. 3:18。

D. 神が神のかたちに、神の姿にしたがって人を創造したのは、神の意図が、人の中へと入って来て、人と一になることであるからです——エペソ 3:17 前半。

E. 神はご自身のかたちに人を創造し、神のエコノミーを通して、人が神の命と性質を受け入れ、それによって神の表現となるようにしました——I テモテ 1:4. ヨハネ 3:16. II ペテロ 1:4. II コリント 3:18：

1. わたしたちは神の種類にしたがって創造されたので、わたしたちの人性の美德は神聖な属性を内容とする能力を持っています——10:1. 11:10。

2. 神が彼のかたちに人を創造したことが意味するのは、神が人を創造した意図が、人が神のコピー、神の複製となり、神の団体的な表現となることであるということです。この複製は神を幸いにします。なぜなら、神の複製は神のように見え、神のように語り、神のように生きるからです——ヨハネ 12:24. ローマ 8:29. ヘブル 2:10. I ヨハネ 3:1-2。

III. 『彼らに、……治めさせよう』。……地に満ちよ、そして地を従わせよ。そして……治めよ——創 1:26, 28：

A. 人に統治権を与えた神の意図は、神に反逆した神の敵サタンを征服することです——26, 28 節：

1. 地を這う這うものが予表するのは、サタン、蛇、彼の使いたち、またサタンに従う悪鬼どもです——26 節. 3:1, 14. 啓 12:4, 7, 9. マタイ 25:41. 参照、ルカ 10:19。

2. 創世記第 1 章 28 節の「従わせよ」が暗示するのは、神と彼の敵サタンとの間で、地上で激しい戦いが進行しているということです。地を得る者はだれであれ、勝利を得ます。

3. 神は問題を持っています。この問題は、天使長サタンが神に反逆し、宇宙において、特に地上で神の敵となったということです——イザヤ 14:12-14. エゼキエル 28:12-18：

a. 神の敵を従わせ、こうして神の問題を解決するために、神は人に権威を与えて、神によって創造された万物を支配させるようにしました——創 1:26。

b. 人は特に地を支配し、地を従わせさなければなりません。なぜなら、地は神の反逆的な敵によって強奪されてきたからです——28 節。

4. 神は、人が神の権威をすべての這うものに行使することを必要としています。神は、人が反逆的な地を従わせ、征服することを必要としています。それは、神が

彼の王国のために地を回復するためです——マタイ 6:9-10。

B. 人に統治権を与えた神の意図は、地を回復することです——創 1:28 :

1. 神はご自身のために地を回復するという意図をもって、人を創造しました—— 26 節。
2. 人が神によって創造されたのは、地に対する統治権を持ち、地を従わせ、地を征服し、それによって神のために地を回復するためでした—— 26, 28 節。
3. 神は地を再び得ることを願っています。地は決定的に重要な場所、すなわちサタンが保持することを願う場所、また神が再び得ることを願う場所となりました。

C. 人に統治権を与えた神の意図は、人が地に対して神の権威を行使し、神の王国が地上に来て、神のみこころが地で行なわれ、神の栄光が地に現されることです——マタイ 6:10, 13 後半。

IV. 一人の新しい人としての召会は、神の意図の中にある団体の人です。この新しい人は、神のかたちを持って神を表現し、神の王国のために神の敵と戦うという、二重の定められた御旨を完成します——エペソ 2:15. 4:24. 6:10-13. コロサイ 3:10 :

A. 聖書は、一人の新しい人が個人ではなく、一人の団体の、宇宙的な人であることを啓示しています——エペソ 2:15. 4:24. コロサイ 3:10-11 :

1. 一人の新しい人は団体の神・人です :
 - a. 最初の神・人、すなわち神の長子は、この団体の神・人（新しい人）のかしらです——ローマ 8:29. エペソ 4:15。
 - b. 多くの神・人、すなわち神の多くの子たちは、この団体の神・人（新しい人）のからだです—— 16, 24 節。
2. わたしたち、キリストにある信者は、みなキリストと一であって、新しい人となります。わたしたちはみな一人の新しい人の各部分です—— 2:15-16. 4:24 :
 - a. 宇宙には多くの信者と多くの地方召会がありますが、ただ一人の新しい人がいるだけです——コロサイ 3:10. 4:15-16。
 - b. すべての信者は、この一人の団体的で宇宙的な新しい人の構成要素です。

B. 一人の新しい人は戦士であり、神の敵と戦います——エペソ 6:10-13 :

1. 戦士は召会の身分ではなく、新しい人としての召会の一面です。
2. 団体の新しい人としての召会は戦士であり、信者たちは共にこの新しい人を構成します。
3. わたしたちは霊的戦いを単独で戦うのではなく、からだの中で、一人の新しい人の中で戦わなければなりません。

務めの書物からの抜粋 :

神のエコノミーの積極的な意図

過去の永遠に、三一の神は神聖な会議を持たれました。その神聖な会議の中で、三一の神はある相談をされ、この相談が彼のエコノミーとなりました。神のエコノミーの積極的な意図は、三つの項目から成っています。

神のかたちに、神の姿にしたがった人を持ち、

人が神と一になって、神が人性においてご自身を表現するようにする

神のエコノミーにおける神の積極的な意図の第一の項目は、神のかたちに、神の姿にしたがった人を持ち、人が神と一になって、神が人性においてご自身を表現するようにすることです（創 1:26 前半）。この地上で人として、イエスは神のかたちに、神の姿にしたがって造られ、あるいは創造されました。キリストは単に生まれただけでなく、また創造されました。キリストは人の胎の中へと入ったとき、創造された人アダムとご自身を結合されました。ですから、キリストは神のかたちに、神の姿にしたがって創造されました。人として、わたしたちはみな両親から生まれました。しかしわたしたちは単に生まれただけではありません。わたしたちはまた創造されました。アダムが創造された時、わたしたちは創造されました。わたしたちの誕生は、ただわたしたちがその創造にあずかるようにしました。同じように、キリストは神のかたちに、神の姿にしたがって創造されて人と一になり、また神と一になりました。

人が神のかたちに、神の姿にしたがって造られたのは、神が人性においてご自身を表現することができるためでした。イエスが地上で三十三年半おられた間、神はイエスの人性においてご自身を表現されました。ヨハネによる福音書第 1 章 18 節は言います、「いまだかつて、神を見た者はいない。父の懐におられるひとり子、この方だけが、父を明らかに示されたのである」。イエスは涙を流したとき、神を表現されました。彼はパリサイ人に怒ったとき、神を表現されました。彼はすべてのことを行なって、彼の人性において神を表現されました。

神は一人の人イエスの人性において見られましたが、これは十分ではありませんでした。人なるイエスは複製され、大量に複製されなければなりません。キリストが肉体と成ったとき、神はただ一人の人の中へと入られましたが、キリストが命を与える霊と成ったとき、神は何百万もの人の中へと入られました。ペンテコステの日に、三千人が一度に生み出されました（使徒 2:41）。これらすべての信者は小さな「キリスト」にされました。すなわち、彼らはキリストの大量の複製でした。

地に対する統治権を人に与えて、神の行政において人に神を代行させる

神のエコノミーにおける彼の積極的な意図の第二の項目は、地に対する、また地上、水中、天にあるすべての被造物に対する統治権を人に与えて、神の行政において人に神を代行させることでした（創 1:26 後半、28 後半）。人は神を表現するだけでなく、また神の行政において神を代行すべきです。これは神の統治の事柄に触れます。四福音書は、イエスが神の表現であるだけでなく、神の代表でもあることを啓示しています。小さな人であるイエスは風をしっかりとつけ、海を静めました（マルコ 4:39）。弟子たちは互いに言いました、「この方はいったいどなただろう。風や海でさえ彼に従うとは？」（41 節）。彼は小さなナザレ人でしたが、風と海は彼に従いました。これは、彼が神の統治権を持っておられたからです。人として、彼は神を代表されました。主イエスは神を代表されました。わたしたちも神を代行することを学ばなければなりません。（神聖な啓示の中心路線、第 9 章）

四つの生き物は人の外観を帯びている

人が神のかたちに創造されたのは、神の表現となるためです。神は宇宙の中心ですが、表現を必要とされ、この表現は人を通してです。人がなければ、神に表現はありません。

無数の御使いは、神の表現となることはできません。神は、彼を表現する団体の人を必要とされます。あなたは、自分が人であるという事実を決して軽んじるべきではありません。

聖書には、実はただ四人の人がいるだけです。それは第一の人、第二の人、新しい人、男の子です。わたしたちは第一の人でした。キリストは第二の人と呼ばれています（I コリント 15:47）。わたしたちは再生によって新しい人になりました。今や、わたしたちは男の子になるという期待があります。この務めは新しい人のためだけでなく、男の子のためでもあります。

わたしたちはキリストの表現としての召会について話しますが、キリストの表現とは何であるかを認識していないかもしれません。召会が表現しなければならないキリストは、御座の上のその人です。わたしたちはキリストを表現しようとするなら、キリストは今日なおも人であることを認識する必要があります。わたしたちはただ神を表現するだけではありません。わたしたちは人の中で神を表現します。召会はキリストの表現です。これは、召会がただ神の表現であるだけでなく、人の表現でもあることを意味します。

エゼキエル書第 1 章 26 節は、主が今日、御座の上の人であることを見せています。神は人を必要とし、そして最終的に人と成られました。わたしたちは生き物として、人としての彼を表現します。彼は御座の上の人であり、わたしたちも人の外観を帯びています。神のご計画を成就するのは人であり、神を表現するのは人であり、敵を打ち破るのは人であり、神の王国を人類の中へともたらすのは人です。神は人を必要としておられます。

キリスト教の宗教的な教えは、御使いのようになるか、あるいは神のようになるようにとわたしたちを励まします。しかしながら、神聖な啓示は、神の願いが人を持つことであることを明らかにします。こうかつな者が、善悪知識の木の実を食べるなら、神のようになると告げることによって、第一の人を誘惑したことを、わたしたちは覚えておく必要があります（創 3:5）。その日から、神のようになるという観念は、わたしたちの血液の中にあるのです。あらゆる墮落した人類は、神のようになりたいという観念を持っています。ある悪魔的な教えは、人以外の何かになるようにと人々を励まします。しかし神は彼の贖いと救いにおいて、人を人以外の何にする意図も持っておられません。神の贖いと神の救いは、わたしたちを初めに戻し、回復して正常な人とならせることです。わたしたちは生き物であり、神の命を内側に持っていますが、しかも人の外観を帯びています。わたしたちは御使いのようになろうとすべきではありません。そうではなく、何であれ行なうことにおいて、何であれ言うことにおいて、何であれ表現することにおいて、わたしたちは人であるべきです。これが今日、神が必要としておられるものです。

エゼキエル書第 1 章のビジョンは、四つの生き物が人の外観を帯びていることに関して三つの重要な事柄を啓示しています。第一に、神の栄光が彼らの上に現されています。神の栄光の現れは、四つの生き物が人の外観を持っていることにかかっています。彼らがいる所に、神の栄光があります。神の栄光は彼らから分離しておらず、彼らから離れて、神の栄光は現されることができません。第二に、これらの生き物は神の行動の手段です。神の行動は彼らにかかっています。彼らが行動するとき、神が行動されます。なぜなら、神の行動は彼らと共にあるからです。第三に、人の外観を帯びている四つの生き物は、神の行政の手段です。エゼキエル書第 1 章は、神が御座に座しておられることを啓示しています。神の御座は、地上のあらゆるもの、この書に記録されているあらゆるものを支配しま

す。ですから、この御座は神の行政の中心です。しかしながら、神の行政の中心は、四つの生き物が人の外観を持っていることにかかっています。このゆえに、神の御座の行政があるのです。わたしたちはこの三つの事を一緒にするなら、人が神の現れの手段であること、人が神の行動の手段であること、人が神の行政の手段であることを見ます。神の目に、また神の御手の中で、人にはそのような重要な地位があります。

わたしたちはみな、神の願いは人を得ることであることを認識する必要があります。神は風、雲、火、こはく金を用いてわたしたちを生かし、人を彼の現れ、行動、行政の手段として得られます。人はそのように神にとって重要であるので、わたしたちが人であって人の外観を帯びていることは極めて重要です。わたしたちは神の現れのために、神の行動のために、神の行政のために、人である必要があります。(エゼキエル書ライフスタディ、第5編)

新しい人

エペソ人への手紙第2章15節は、キリストが十字架を通して、「数々の規定から成っている戒めの律法を、彼の肉体の中で廃棄された……それは、彼がご自身の中で、二つのものを一人の新しい人へと創造して」と言います。次にエペソ人への手紙第4章22節から24節で、古い人を脱ぎ捨て、新しい人を着たと告げられています。この新しい人はキリストのからだです。新しい人を着ることは、からだによる生活をするを意味します。わたしたちは救われる前、古い人の中で、古い社会の中で生きていましたが、今やキリストの肢体であって、彼のからだの中で生きています。わたしたちは古い社会生活を伴う古い人を脱ぎ捨てるべきであり、新しい人、召会を着るべきです。この新しい人の中に、天然のものはなく、ユダヤ人はなく、ギリシャ人はなく、社会階級はありません。すべての人はキリストに満ちているので、キリストはすべての人であり、キリストはすべての人の中におられます(コロサイ 3:10-11)。新しい人の中にはキリスト以外に何もありません。わたしたちの命はキリストであり、わたしたちの生活はキリストであり、わたしたちの意図はキリストであり、わたしたちの大志はキリストであり、わたしたちの意志はキリストであり、わたしたちの愛はキリストであり、わたしたちについての他のすべてはキリストです。彼はわたしたちの全存在に浸透されます。

この新しい人は、エペソ人への手紙第4章17節から32節によれば、恵みと実際による生活をします。これらは、そのような新しい人の生活の中で、神の定められた御旨を成就する二つの主要な要因です。神はこの地上で新しい人が彼の定められた御旨を成就し、彼の意図を遂行することを必要としておられます。(聖書における基本的啓示、第5章)

新しい人

エペソ人への手紙は、召会はキリストのからだ(1:22-23)、神の王国、神の家族(2:19)、宮、神の住まい(2:21-22)であることを啓示しています。第2章15節と第4章24節では、召会が新しい人であることを見ます。エペソ人への手紙第2章15節は言います、「数々の規定から成っている戒めの律法を、彼の肉体の中で廃棄されたからです。それは、彼がご自身の中で、二つのものを一人の新しい人へと創造して、平和をつくるためであり」。エペソ人への手紙第4章24節は言います、「あの実際の義と聖の中で、神にしたがって創造

された、新しい人を着たのです」。さらに、コロサイ人への手紙第3章10節は言います、「新しい人を着たのです。その新しい人は、それを創造された方のかたちにしたがって全き知識へと至るように、新しくされつつあるのです」。「召会」に対するギリシャ語、「エクレスシア (ekklesia)」は、集まりのために召し出された人たちを意味します。ですから、会衆です。これは召会の初歩の面です。わたしたちはこの面から、神の家と神の王国の面に前進する必要があります。これらは初歩の面よりも高いのですが、キリストのからだとしての召会の面ほど高くはありません。しかし新しい人は、キリストのからだよりもさらに高いのです。ですから、召会は単に信者たちの会衆、天的な国民の王国、神の子供たちの家族だけでなく、キリストのためのからだだけでさえありません。さらに高い面で、召会は、神の永遠の定められた御旨を完成する新しい人です。召会がキリストのからだであることの強調は命にありますが、召会が新しい人であることの強調はパースンにあります。キリストのからだとして、召会はキリストをその命として必要とします。新しい人として、召会はキリストをそのパースンとして必要とします。命のない体は体ではなく、死体です。しかしながら、体が行動するとき、それは命によってではなく、パースンによって決定されます。ですから、新しい人の中で、わたしたちはキリストをわたしたちのパースンとする必要があります。団体のパースンとしての新しい人は、イエスが地上で生きられた生活、すなわち、真実の生活をして、神を表現し、神が人によって実際として認識されるようにすべきです。

創世記第1章で神が人を創造したことは、神の新創造における新しい人の絵です。これが意味するのは、旧創造が新創造の型、予表であるということです。神の旧創造において、中心的な特徴は人です。神の新創造においても同じです。ですから、旧創造でも新創造でも人が中心です。

神はご自身のかたちに人を創造し(創1:26)、そして人に神の統治権を与えられました。かたちは表現のためです。神は人が彼の表現になることを願われます。しかしながら、統治権は表現の事柄ではなく、代行の事柄です。神は、人が神の統治権のために、神の權威にあって神を代行することを願っておられます。旧創造において、人は創造され、神のかたちを持って神を表現し、また神の統治権を持って神を代行しました。

かたちは神の積極的な意図を指しており、統治権は神の消極的な意図を指しています。神の積極的な意図は、人が神を表現することですが、神の消極的な意図は、人が神の敵、サタン、悪魔を対処することです。宇宙において、神はある問題、彼の敵を対処するという問題を持っておられます。神の敵である悪魔は被造物ですから、神は自ら彼を直接、対処することはされません。そうではなく、神は彼の創造の被造物である人によって敵を対処されます。神は人を通して神の敵を対処されるのです。ですから、神が人を創造されたことには二つの意図がありました。積極的な意図は、人が神のかたちを帯びて神を表現することです。消極的な意図は、人が神の統治権を持って神を代行し、神の敵を対処することです。

旧創造では、人に与えられた統治権は地上に限られました。これは、旧創造において、神の敵を対処することが地上に限定されていたことを意味します。しかしながら、神の新創造において、その統治権は全宇宙に拡大されています。

最終的に、新しい人としての召会は、神の意図における人です。神は人を求めて、旧創

造において型、予表を創造されたのであって、真の人ではありませんでした。真の人は、キリストが彼のすべてを含む死を通して十字架上で創造された人です。この人が新しい人と呼ばれます。

「新しい人」という用語は、わたしたちに古い人を思い起こさせます。古い人は神の二重の定められた御旨を完成しませんでした。しかしながら、神の新創造における新しい人は、神を表現し、神の敵を対処するという二重の定められた御旨を完成します。(新約の結論 (13)、メッセージ 216)